

高知県におけるアリアケモドキ属 2 種の分布 (カニ下目: ムツハアリアケガニ科)

佐藤友康*・山本藍子**・町田吉彦**

The distribution of two brackish water crabs of the genus *Deiratonotus*
in Kochi Prefecture, Japan

(Crustacea: Decapoda: Brachyura: Camptandriidae)

SATO Tomoyasu*, YAMAMOTO Aiko** and MACHIDA Yoshihiko**

Abstract The distributions of two camptandriid crabs, *Deiratonotus cristatus* and *D. japonicus*, were studied on the basis of 380 specimens collected in 2004 and 2005, from the brackish waters in Kochi Prefecture, Japan. The former species was abundant on intertidal sandy-mud bottoms of the innermost part of Urado Estuary and water pools formed during the ebb tides near the mouth of the Niyodo River. Specimens of *D. japonicus* were frequently collected from pebbly bottoms in the rivers from eastern to western Kochi Prefecture. Although many localities for these species were confirmed than previous studies, their habitats seemed to be easily affected by various human activities.

Key words: Brachyura, Camptandriidae, *Deiratonotus cristatus*, *Deiratonotus japonicus*, distribution, brackish water, Kochi Prefecture.

はじめに

日本産のアリアケモドキ属には、アリアケモドキ *Deiratonotus cristatus*、カワスナガニ *D. japonicus* およびトンダカワスナガニ *D. tondensis* の 3 種分類群が知られており、いずれも河口域の潮間帯に生息する(和田, 1996)。トンダカワスナガニは Sakai (1983) により和歌山県白浜町富田川産の標本に基づき記載されたが、本分類群がカワスナガニと同種である可能性が指摘されている

(環境庁, 2000)。また、両分類群の分類学的再検討が奈良女子大学の和田恵次博士によりなされつつあり、両種が同一である可能性が高いとされている(駒井, 私信)。

和田(1996)はアリアケモドキを希少種、カワスナガニを絶滅寸前、トンダカワスナガニを絶滅に向けて進行している種(危険)と位置づけている。さらに、アリアケモドキは三重県の絶滅危惧Ⅱ(http://www1.eco.pref.mie.jp/fmi/xsl/Z11_checksheetsl?-recid=8373)、愛媛県の絶滅危惧Ⅰ類(須賀,

*株式会社東洋技研

〒783-0085 南国市十市4465-19

Toyo Giken Co., 4465-19, Tochi, Nankoku 783-0085, Japan

**高知大学理学部海洋生物学研究室

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Laboratory of Marine Biology, Faculty of Science, Kochi University, 2-5-1, Akebono-cho, Kochi 780-8520, Japan

2003), 福岡県の絶滅危惧種(逸見, 2001)にそれぞれ指定されている。環境庁(2000)はカワスナガニを1991年に全国的な希少種に指定したが, 2000年のレッドリスト(http://www.env.go.jp/press/file_view.php3?serial=1152&hou_id=1638)では, カワスナガニとトンダカワスナガニを情報不足の種として扱っている。また, カワスナガニは三重県の絶滅危惧IB類(http://www1.eco.pref.mie.jp/fmi/xsl/Z11_checksheetsheet.xsl?_recid=8374), 福岡県の絶滅危惧種(嶺井, 2001), 沖縄県の準絶滅危惧種(成瀬, 2005)にそれぞれ指定されている。

高知県レッドデータブック(高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会, 2002)によれば, アリアケモドキとカワスナガニが県内に産するとされており, 後者は準絶滅危惧種に指定されているが, 両種の分布に関する記述はない。高知県では, 橋口(1975)が浦戸湾の深浦でアリアケモドキを確認しているが, その標本は存在しない。

著者らが2004年4月から2005年10月にかけて実施した高知県内の干潟環境に生息するカニ類の生息調査で, アリアケモドキとカワスナガニが多数の地点で確認された。上述のように, 両種は全国的に希少と考えられ, また, 県内における分布の詳細がこれまで不明であったことから, 高知県全域における両種の生息状況を報告する。

採集場所と方法

調査は2004年4月から2005年10月にかけて, 高知県最東端の安芸郡東洋町から最西端の宿毛市に至る58地点の感潮域で実施した。なお, 調査地点は山本ほか(2006)と同一である。

カニ類は素手および手網で採集し, 低温で保存して研究室に持ち帰り, 写真撮影した後, 75%エタノールで固定した。その後, 甲幅(CW)と甲長(CL)をノギスで測定し, 性別, 卵の有無を記録した。本研究で用いた標本は全て四国自然科学研究センターの甲殻類標本(SINH-CR)として登録してある。なお, 本文ではSINH-CRを省略し, 登録番号を太字で示す。また, 甲幅と甲長の単位はミリメートルである。

結果ならびに考察

ムツハアリアケガニ科

Deiratonotus cristatus (de Man, 1895)

アリアケモドキ

(Fig. 1)



Fig. 1. *Deiratonotus cristatus*, SINH-CR 1223, male, 10.0mm CW, from Kokubu River, Kochi City, 18 Jun. 2005.

調査標本(256個体): **1223**, ♂, CW 10.0, CL 7.2, 高知市国分川(浦戸湾流入河川), 2004. 6. 18; **1431**, 抱卵♀, CW 12.0, CL 9.5, 国分川, 2004. 7. 19; **1432**, ♂, CW 9.5, CL 7.0, 国分川, 2004. 7. 19; **1436**, 3♂+4♀, CW 3.1-8.7, CL 1.6-6.1, 国分川, 2004. 7. 19; **1708**, ♀, CW 5.0, CL 3.7, 須崎市出見川(浦ノ内湾流入河川), 2004. 9. 14; **1784**, 5♂+3♀, CW 3.5-8.7, CL 2.6-6.6, 四万十市竹島川(四万十川支流), 2004. 10. 11; **1998**, ♀, CW 7.6, CL 4.8, 須崎市桜川(須崎湾流入河川), 2004. 4. 20; **1999**, ♂, CW 3.4, CL 2.5, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 9. 18; **2000**, ♀, CW 5.3, CL 4.0, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 9. 18; **2001**, ♂, CW 4.8, CL 3.8, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 9. 18; **2002**, ♀, CW 5.2, CL 3.6, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 9. 18; **2003**, ♂, CW 4.2, CL 3.0, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 9. 18; **2004**, ♂, CW 3.0, CL 2.4, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 9. 18; **2005**, ♂, CW 9.8, CL 7.0, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 6. 19; **2006**, ♂, CW 10.0, CL 7.5, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 6. 19; **2007**, 抱卵♀, CW 12.0, CL 9.0, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 6. 16; **2008**, 抱卵♀, CW 9.8, CL 7.0, 国分川下ノ瀬

橋, 2004. 6. 19; **2009**, ♂, CW 8.4, CL 6.6, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 6. 19; **2010**, ♀, CW 12.0, CL 9.2, 高知市薊野川(浦戸湾流入河川), 2004. 9. 29; **2011**, ♂, CW 12.6, CL 9.0, 薊野川, 2004. 9. 29; **2012**, ♀, CW 9.9, CL 7.0, 薊野川, 2004. 9. 28; **2013**, 抱卵♀, CW 10.9, CL 8.4, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 7. 19; **2014**, ♀, CW 5.5, CL 3.9, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 7. 19; **2015**, ♀, CW 5.3, CL 3.8, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 7. 19; **2016**, ♂, CW 8.2, CL 6.2, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 7. 19; **2017**, ♂, CW 8.4, CL 6.3, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 7. 19; **2018**, ♂, CW 5.7, CL 4.5, 国分川下ノ瀬橋, 2004. 7. 19; **2025**, 抱卵♀, CW 2.9, CL 7.0, 竹島川, 2004. 10. 11; **2029**, ♀, CW 8.8, CL 6.7, 竹島川, 2004. 10. 11; **2030**, ♀, CW 8.0, CL 6.0, 竹島川, 2004. 10. 11; **2031**, ♂, CW 7.8, CL 5.8, 竹島川, 2004. 10. 11; **2032**, ♂, CW 4.7, CL 3.4, 竹島川, 2004. 10. 11; **2033**, ♀, CW 5.5, CL 4.0, 竹島川, 2004. 10. 11; **2034**, ♂, CW 5.3, CL 4.0, 竹島川, 2004. 10. 11; **2035**, ♂, CW 3.6, CL 2.7, 竹島川, 2004. 10. 11; **2360**, ♂, CW 5.2, CL 4.0, 春野町仁淀川右岸, 2005. 3. 26; **2423**, ♂, CW 8.6, CL 6.2, 高知市鏡川大橋下(浦戸湾流入河川), 2005. 4. 6; **2445**, 9 ♂+8 ♀, CW 0.9-4.0, CL 3.2-6.4, 春野町仁淀川左岸, 2005. 4. 9; **2431**, 26 ♂+21 ♀, CW 2.6-9.0, CL 2.7-6.6, 仁淀川右岸, 2005. 4. 9; **2431**, 26 ♂+21 ♀, CW 2.6-9.0, CL 2.7-6.6, 仁淀川右岸, 2005. 4. 9; **2432**, ♀, CW 8.3, CL 6.1, 仁淀川右岸, 2005. 4. 9; **2434**, ♂, CW 9.4, CL 6.7, 仁淀川右岸, 2005. 4. 9; **2454**, ♂, CW 11.3, CL 8.4, 春野町新堀川(仁淀川支流), 2005. 4. 10; **2686**, 20 ♂+23 ♀(抱卵4), CW 3.8-10.4, CL 2.6-7.4, 仁淀川右岸, 2005. 5. 7; **2726**, 5 ♂+4 ♀(抱卵2), CW 4.2-14.2, CL 3.1-10.9, 国分川, 2005. 5. 7; **2908**, ♀, CW 12.0, CL 8.8, 竹島川, 2005. 5. 25; **3331**, ♂, CW 9.1, CL 6.7, 土佐清水市下ノ加江川, 2005. 8. 22; **3340**, 10 ♂+6 抱卵♀, CW 8.3-12.2, CL 6.1-8.8, 下ノ加江川, 2005. 8. 22; **3441**, 11 ♂+6 ♀, CW 2.4-8.0, CL 1.9-5.7, 仁淀川右岸, 2005. 9. 15; **3569**, 2 ♂+3 抱卵♀, CW 8.9-12.7, CL 6.6-9.5, 国分川, 2005. 6. 9.

備考 須賀(2003)は, 本種が泥地に穴を掘って生息するとしている. 本研究では, 転石下にいる個体と, 水底または干出した底質上でじっとしている個体が観察され, 採集されたが, 穴の中から掘り出された個体はいなかった. また, 採集の際に, 個体は特定の巣穴に身を隠すことがなく, 底質に潜ったり, 逃避中に偶然見つけた穴に身を潜めたりする行動が認められた.

本種は, 北海道では有珠湾(大島, 1963)と藻琴湖(駒井ほか, 1992)で記録されており, また, 青森県では青森湾(土屋, 1982)で記録されている. 和田(1996)によれば, 本種は岩手県以南から瀬戸内海までおよび有明海沿岸から記録されているが, その記録は多くはなく, 有珠湾と青森湾における最近の情報はないとされている. しかしながら, 駒井(私信)によれば, 2004年に有珠湾で採集された標本が千葉県立中央博物館に保管されている(CBM-ZC 7978). 本種は, 三重県では6地点から(http://www1.eco.pref.mie.jp/fmi/xsl/Z02_shosai10.xsl?-recid=8373), 愛媛県では西条市の加茂川と中山川から(須賀, 2003), 福岡県では過去に博多湾東部の和白干潟と多々良川から, また, 現在は大牟田市の矢部川と諏訪川から(逸見, 2001), 沖縄県では沖縄島北部の5河川から報告されている(仲宗根・伊礼, 2003). 本研究で, 本種が高知県中央部から南西部の足摺岬の付け根の東端に至る感潮域, すなわち, 浦戸湾奥部の流入河川の河口域(国分川, 薊野川, 鏡川), 仁淀川河口域(両岸と支流の新堀川河口), 浦ノ内湾中央部の出見川, 須崎湾最奥部(桜川河口), 竹島川(四万十川支流)および下ノ加江川の河口域の計6地域11ヶ所から256個体が採集され, 広範囲に分布することが明らかとなった. これらのうち, 仁淀川と下ノ加江川は土佐湾流入河川であるが, 両河川で本種が採集されたのはいずれも湾処である. このように, 本研究で確認された本種の生息地は波浪の影響をほとんど受けない半閉鎖的な場所であり, 本種が内湾性の強い種であることが示唆された. 仲宗根・伊礼(2003)は, 本種が塩分濃度の低い地点に生息することを示したが, 本研究の採集地も感潮域上部の淡水の影響が強い場所である.

本研究においては, 国分川河口(41個体)と仁淀川河口右岸(157個体)で多くの個体が採集された. いずれの生息環境も砂泥地であり, 周辺に

はヨシまたはシオクグ群落が存在する。抱卵個体の多くもこの2地域で採集された。ほとんどの抱卵個体は4月から8月にかけて、上記2地域の他に下ノ加江川と竹島川で採集されたが、竹島川では2004年10月に1抱卵個体が採集されたのみである。最小の抱卵個体の甲幅は7.0mmであった。

本種の生息は浦戸湾以東の県東部で確認されなかった。これは、山本ほか(2006a)が指摘しているように、県東部には本種の生息に適した内湾的な環境がないこと、河口部の傾斜が急で泥質の干潟がないこと、波浪のため河口部がしばしば閉塞することが考えられる。これらのことから、本種の生息にとって好適な環境が県中央から南西部の限られた地域にしかないため、個体群のほとんどが高知県中央部に集中している可能性が高い。本来、高知県内には砂泥質の干潟が少ないこと、また、本種が生息する河口干潟は浦戸湾の最奥部や仁淀川河口などの人口密集地に近く、河川改修や水質汚濁等の人的影響を受けやすい地域であることを考慮すると、高知県内における本種の生存基盤は脆弱といえる。今後、本種の生息状況をモニタリングしていくとともに、何らかの保全策を考える必要があると考えられる。

Deiratonotus japonicus (Sakai, 1934)

カワスナガニ

(Fig. 2)



Fig. 2. *Deiratonotus japonicus*, SINH-CR 2538, male, 8.2mm CW, from Kaminokae River, Nakatosa Town, 23 Apr. 2005.

調査標本(124個体): 1236, 抱卵♀, CW 7.4, CL 5.7, 須崎市灰方川(浦ノ内湾流入河川), 2004. 6. 18; 1237, ♀, CW 7.5, CL 6.0, 灰方川,

2004. 6. 18; 1380, 抱卵♀, CW 6.9, CL 5.8, 須崎市桜川(須崎湾流入河川), 2004. 7. 4; 1381, 抱卵♀, CW 8.0, CL 6.6, 桜川, 2004. 7. 4; 1469, ♂, CW 7.0, CL 5.9, 高知市灘谷川(浦戸湾流入河川), 2004. 8. 3; 1497, ♂, CW 7.0, CL 5.5, 桜川, 2004. 8. 5; 1586, ♂, CW 4.4, CL 3.8, 灰方川, 2004. 8. 15; 1645, ♀, CW 9.2, CL 7.5, 灘谷川, 2004. 8. 29; 1646, ♂, CW 4.0, CL 3.3, 灘谷川, 2004. 8. 29; 1658, ♂, CW 4.6, CL 3.8, 灘谷川, 2004. 8. 31; 1664, 3♂+3♀(抱卵1), CW 5.0-9.4, CL 4.4-8.0, 安芸市赤野川, 2004. 9. 1; 1709, ♂, CW 4.5, CL 3.8, 須崎市出見川(浦ノ内湾流入河川), 2004. 9. 14; 1710, 2♂, CW 4.0-7.2, CL 3.3-6.0, 出見川, 2004. 9. 14; 1721, ♀, CW 5.7, CL 4.8, 大方町蜷川, 2004. 9. 15; 1722, ♀, CW 5.0, CL 4.0, 蜷川, 2004. 9. 15; 1723, 9♂+2♀, CW 3.4-4.4, CL 2.9-4.0, 蜷川, 2004. 9. 15; 1727, 3♂, CW 3.8-4.7, CL 3.0-3.9, 大方町伊田川, 2004. 9. 15; 1774, ♂, CW 6.8, CL 5.6, 土佐清水市下ノ加江川, 2004. 10. 12; 1786, 抱卵♀, CW 8.5, CL 7.0, 灘谷川, 2004. 10. 13; 2419, ♂, CW 5.4, CL 4.4, 春野町甲殿川右岸, 2005. 4. 23; 2537, ♂, CW 8.1, CL 6.5, 中土佐町上ノ加江川, 2005. 4. 23; 2538, ♂, CW 8.2, CL 6.7, 上ノ加江川, 2005. 4. 23; 2539, 3♂+6♀, CW 6.3-10.5, CL 5.4-9.0, 上ノ加江川, 2005. 4. 23; 2542, 3♂+♀, CW 6.4-10.0, CL 5.2-7.9, 上ノ加江川, 2005. 4. 23; 2543, 8♂+6♀, CW 3.1-9.4, CL 2.6-8.0, 上ノ加江川, 2005. 4. 23; 2562, 2♂+6♀(抱卵1), CW 5.7-8.6, CL 4.7-6.7, 須崎市押岡川(須崎湾流入河川), 2005. 4. 24; 2568, 抱卵♀, CW 8.8, CL 7.0, 桜川, 2005. 4. 24; 2569, ♂, CW 5.2, CL 4.4, 桜川, 2005. 4. 24; 2724, 2♂+3♀(抱卵2), CW 5.5-10.7, CL 4.4-8.4, 須崎市下中山(浦ノ内湾流入無名河川), 2005. 5. 8; 2774, 4♂+4♀(抱卵1), CW 5.9-9.0, CL 4.8-7.2, 下中山, 2005. 5. 8; 2807, ♂, CW 3.1, CL 2.6, 灰方川, 2005. 5. 13; 2841, 抱卵♀, CW 12.2, CL 9.5, 赤野川, 2005. 5. 20; 2843, 2♂, CW 8.6-8.8, CL 7.0-7.1, 赤野川, 2005. 5. 20; 2890, 3♂+2抱卵♀, CW 7.0-10.3, CL 5.8-8.1, 蜷川, 2005. 5. 24; 3236, 抱卵♀, CW 9.5, CL 7.8, 須崎市

摺木川(浦ノ内湾流入河川),2005. 8. 10; **3237**, ♂, CW 7.6, CL 6.1 摺木川, 2005. 8. 10; **3238**, 2 ♂, CW 6.7-7.7, CL 5.6-6.4, 摺木川, 2005. 8. 10; **3264**, 抱卵♀, CW 10.2, CL 8.4, 田野町奈半利川右岸, 2005. 8. 16; **3265**, 抱卵♀, CW 9.3, CL 7.8, 奈半利川右岸, 2005. 8. 16; **3266**, ♂, CW 6.6, CL 5.5, 奈半利川右岸, 2005. 8. 16; **3267**, ♂, CW 6.9, CL 5.9, 奈半利川右岸, 2005. 8. 16; **3330**, ♀, CW 8.1, CL 6.8, 下ノ加江川, 2005. 8. 22; **3341**, ♂+6抱卵♀, CW 7.0-9.7, CL 5.6-7.8, 下ノ加江川, 2005. 8. 22; **3362**, 3 ♂+♀, CW 2.0-7.2, CL 1.6-6.0, 土佐清水市三崎川, 2005. 8. 23; **3366**, ♂, CW 4.1, CL 3.5, 土佐清水市宗呂川, 2005. 8. 23; **3432**, ♂, CW 6.4, CL 5.5, 大月町頭集川, 2005. 9. 3; **3555**, ♂, CW 6.6, CL 5.6, 灘谷川, 2005. 10. 16; **3556**, ♂, CW 7.5, CL 6.4, 灘谷川, 2005. 10. 16.

備考 和田(1996)は本種を絶滅寸前としており,また,環境省のレッドリストでは情報不足の種として扱われている(http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=1152&hou_id=1638). 嶺井(2001)によれば,本種は相模湾,伊豆下田,南紀富田川,福岡,宮崎,鹿児島から報告されており,また,南限は沖縄本島である(成瀬,2005). なお,本種は寺田(1995)により三重県尾鷲市の古川で,また,近畿地方整備局の2003年の資料(http://www.kumanogawa.org/jyunbikai/files/giji/001/pdf/3-3_gaiyou.pdf)によれば,熊野川河口域の左岸(三重県)でそれぞれ確認されており,2005年の三重県のレッドデータブックで同県の絶滅危惧IB類に指定されている(http://www1.eco.pref.mie.jp/fmi/xsl/Z02_shosai10.xsl?~recid=8374).

本種の産地が多い奄美大島では,6河川で生息が確認されている(岸野ほか,2001). また,福岡県では3町の5河川で(嶺井,2001),宮崎県では延岡市の五ヶ瀬川,北川,祝子川の3河川で本種が記録されている(国土交通省河川局,2003). しかしながら,本種は宮崎県の情報不足種である(<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shizen/reddatabook/koukaku.htm>).

本研究では,奈半利川右岸(田野町),赤野川(安芸市),浦戸湾(高知市灘谷川),甲殿川右岸(春野町),浦ノ内湾(灰方川,出見川,下中山,摺木川),須崎湾最奥部(桜川,押岡川),上ノ加江

川(中土佐町),伊田川(大方町),蜷川(大方町),下ノ加江川(土佐清水市),三崎川(土佐清水市),宗呂川(土佐清水市)および頭集川(大月町)の13地域17ヶ所において本種が確認された. 高知県内の生息地の環境は,湾奥部と湾処などの内湾的な環境(浦戸湾や上ノ加江川など)から,直接外海に面する河口の感潮域(奈半利川,頭集川など)までさまざまである. 前述のアリアケモドキは干潮時に干出した底質上や礫の下でも観察されたが,本種は河川感潮域上部の流水域で採集された. 生息地の底質はいずれも砂礫であった. 抱卵個体は4月から10月にかけて22個体が採集された. 最小抱卵個体の甲幅は6.9mmであった.

本研究では,上ノ加江川河口域(29個体)と蜷川(18個体)で多くの個体が採集された. これは,両河口域の傾斜が比較的緩やかで,河川感潮域上部に本種の生息に好適な礫地が発達しているためと考えられる. 本種はアリアケモドキ同様に,内湾域および半閉鎖的環境が多い高知県の中央部と南西部にも分布するが,これらの地域とは逆に外海に直接流入する河川の多い県東部と足摺岬以西にも分布している. このことは,アリアケモドキがより砂泥質の底質に生息しているのに対し,本種はより礫質の河床に適応していることを示唆している. 山本ほか(2006b)は,高知県内の河口が閉塞しない河川においてタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキが普通種であることを示したが,これら両種の産地と比較すると本種の産地は明らかに少ない. また,本種の各生息地における個体数が少ないことから,本種が高知県において普通種とは言い難い. 本種の生息域はアリアケモドキのそれと同様,人為的影響を受けやすく,河床の床堀などにより容易に環境が激変する地域である. 和田(1996)は本種が絶滅する可能性があるとして指摘している. 高知県においても本種の生息基盤は不安定であり,高知県版レッドデータブックでは準絶滅危惧種とされている(高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会,2002). 今後,高知県内における本種の生息環境が悪化すれば,地域個体群が絶滅する可能性も否定できず,本種の生息域を改変する際には十分な保全対策を講じる必要がある.

謝 辞

トンダカワスナガニおよびアリアケモドキに関する情報を提供していただいた千葉県立中央博物館の駒井智幸氏に厚く御礼申し上げます。また、標本の採集で協力をいただいた同研究室の院生ならびに学生諸氏に感謝する。なお、本報告は著者の一人、山本が受領した公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金による成果の一部である。

引用文献

- 橋口義久．1975．浦戸湾における甲殻類，とくにエビ・カニ類の生息状況（高知県，編：高知港（種崎新港）建設に係る環境事前調査報告書，一昭和49年度委託調査一）pp. 87-100．高知県．
- 逸見泰久．2001．アリアケモドキ（福岡県の希少野生生物編集委員会，編：福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2001－）p. 422，福岡県総務部県民情報公報課，福岡．
- 環境庁（編）．2000．日本の絶滅のおそれのある野生動物－レッドデータブック－無脊椎動物編1991年8月 初版第7刷．財団法人自然環境研究センター，東京，271pp．
- 岸野 底・野元彰人・木邑聡美・米沢俊彦・和田恵次．2001．奄美大島の汽水産カニ類．南紀生物，43：125-131．
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会（編）．2002．高知県レッドデータブック〔動物編〕．高知県文化環境部環境保全課，高知，470pp．
- 国土交通省河川局（編）．2003．五ヶ瀬川水系の流域及び河川の概要（案）．国土交通省，37pp．
- 駒井智幸・丸山秀佳・小西光一．1992．北海道産の十脚甲殻類の分布リスト．甲殻類の研究，(21): 189-205．
- 嶺井久勝．2001．カワスナガニ（福岡県の希少野生生物編集委員会，編：福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2001－）p. 423，福岡県総務部県民情報公報課，福岡．
- 仲宗根幸男・伊礼美和子．2003．スナガニ科 Ocyrodidae．（西田 睦・鹿谷法一・諸喜田茂光，編著：琉球列島の陸水生物）pp. 266-272．東海大学出版会，東京．
- 成瀬 貫．2005．カワスナガニ（沖縄県文化環境部自然保護課，編：改定・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわ－），pp. 219-220．沖縄県文化環境部自然保護課，沖縄．
- 大島和雄．1963．北海道有珠湾の生態学的研究．第1報 底質と採集動物．北海道区水産研究所報告，(27): 19-25．
- Sakai, T. 1983. Description of new genera and species of Japanese crabs, together with systematically and biogeographically interesting species. RESEARCHES ON CRUSTACEA, (12): 1-44, pls. 1-8, 1 frontispiece.
- 須賀秀夫．2003．アリアケモドキ．（愛媛県貴重野生動植物検討委員会，編：愛媛県レッドデータブック－愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物－）p. 220．愛媛県県民環境部環境局自然保護課，愛媛．
- 寺田正之．1995．カワスナガニ *Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934) (スナガニ科，ムツバアリアケガニ亜科) のゾエア幼生．甲殻類の研究，(24): 203-209．
- 土屋 誠．1982．海辺の動物（青森市教育委員会，編：青森市の自然－水中編－）pp. 165-181．青森市教育委員会社会教育課，青森．
- 和田恵次．1996．7）節足動物（和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏：日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状）pp. 74-79．WWF Japan サイエンスレポート，3．
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康．2006a．高知県におけるヒメベンケイガニの分布（カニ下目：ベンケイガニ科）．四国自然史科学研究，(3): 23-28．
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康．2006b．高知県の干潟環境におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの分布（カニ下目：モクズガニ科）．四国自然史科学研究，(3): 1-8．

（原稿受理 2006年3月31日）